

誤謬性，パラダイムシフト およびセレンディピティに想う

高 橋 慶 壮

「賢者は歴史に学び，愚者は経験に学ぶ」とはビスマルクの名言です。過去の歴史を知って疑似体験を重ね，経験していない状況に対しても対応できる姿勢を身に付けるという意味でしょうか。我々はしばしば読書によって歴史を学びます。

昨年は，城山三郎氏の「戦争の功罪」および「組織と個人」の関係を題材にした小説や，気骨ある偉人達を取り上げた作品を数多く読みました。最近では，昨今の世界的な金融危機，世界同時不況の時世から，「ソ罗斯は警告する」ジョージ・ソロス（講談社），「恐慌前夜」副島隆彦（祥伝社）などを読みました。ソロスが現代の不確実な状況を「誤謬性（ごびゅうせい）」という言葉で説明しています。「連鎖する大暴落」副島隆彦（徳間書店）では，著者が2007年4月の時点でバラク・オバマ氏が黒人初となる第44代米国大統領に就任することを予言しており驚きました。選挙期間中，「Yes, we can!」や「change」を訴えたオバマ氏の姿は，かつて変革を訴えて大統領に就任したビル・クリントン氏を思い出させ，閉塞感の漂う時世には，耳心地の良い言葉だったでしょう。

2007年の米国のサブプライム問題に端を発して，2008年9月にはリーマンブラザーズの経営破綻やビッグ3の苦境が報道され，現在まで米国の金融バブルの崩壊は加速し，2009年は，欧米日本すべての経済がマイナス成長に入ると予測されています。1930年代の大恐慌並みの世界恐慌と位置づける専門家もいます。国内でも輸出産業の低迷や雇用の縮小と明るい話題がなく，「波乱の時代」といえます。

一方で，今回の世界同時不況の後に世界は大きく変わることが予想されています。大きな「パラダイムシフト」（理解の枠組みの転換）が起こるといえるのです。たとえば，金融恐慌の発信地である米国が掲げてきた「市場原理主義」に明らかな陰りが見え，国力の低下に伴って，戦後の米英イスラエル体制が崩壊し，米国一極体制から多極化へ移行することが予想されています。日本は近代史上，「明治維新」と「第二次世界大戦の敗戦」という2回の大きなパラダイムシフトを経験しました。さいわい，当時はそれぞれ，「欧州」「米国」といった「成功モデル」が存在しましたが，今回は見習うモデルがありません。「暗中模索の時代」といえるでしょう。

「Serendipity」（セレンディピティ）という言葉は，セイロン島の3人の王子達の遭遇する冒険にまつわるおとぎ話に由来しており，思わぬこと（もの）を偶然に発見する才能（能力）のことを意味します。何かを探している時に，探しているものとは別の価値あるものを見つける能力あるいは才能を指す言葉です。研究の世界では偶然の発見を見逃さない注意力が決定的な発見に結びついたという話を聞くことがあります。最近では，オワンクラゲから緑色蛍光タンパク質を発見した下村脩博士がノーベル賞を授賞し

て話題になりました。

金融・経済と同様に、研究の世界でも先が全く見えないことはよくあります。現在やっている実験が成功するのか、そもそも自分の立てた仮説が正しいのかさえも定かではない状態で研究を進めます。それで研究を「航海」や「冒険」にたとえる人もいます。私が大学院生だった時には一つの実験に成功するまで半年以上の時間を費やしたことがありますし、ポスドク時代には、偶然から発見した所見に基づいて論文を作成したことがあります。最近では、2001年にパブリッシュされた私の論文を読んだギリシャ人からメールで共同研究を誘われ、歯周病の進行を「カオスの理論」から説明する論文を2年越しで作成して発表しました。予想もしなかった展開でしたが、新鮮で楽しい経験でした。

20年前の歯周病の病態研究の中では、好中球やリンパ球機能を調べて患者の生体防御能力のほころびを見つけるのが大きなテーマでした。しかし、20年経って歯周病学研究の軸足は、「歯周医学」「歯周組織再生」および「口腔インプラント」研究に大きくシフトしています。「医科—歯科連携」は歯周医学を発展させるために今後ますます重要になるでしょう。再生療法の研究では、未分化間葉系細胞、骨髄幹細胞、体性幹細胞、ES細胞、iPS細胞へと研究対象はシフトしつつありますが、確固としたポリシーがあるようにはみえません。遺伝子研究については、ヒト全ゲノムが解読されてDNAチップが作製され、解析できる遺伝子情報は膨大になりましたが、多額の研究費を投入している割には、ブレイクスルーがまだ見られません。バイオフィilm研究も同様です。実際、ゲノム解読後も、タンパク質、糖鎖およびエピジェネティクス研究を進めなければ、治療薬の開発は難しいでしょう。

現在は不透明な時代といわれますが、歴史を振り返れば先人たちは幾多の困難を乗り越えてきたことに気づきます。経済であれ研究であれ、仕事が全て成功に繋がることはないでしょうが、楽観主義と行動力が成功へ近づく必要条件だと思います。高杉晋作の辞世の句は「面白きこともなき世を面白く」ですが、激動の明治維新に比べれば、今の時代を「面白く」生きることはそれ程難しくはないように思います。夢と志を持って進んでゆきたいものです。

(奥羽大学歯学部歯科保存学講座)